

あきたからの米レター

高温・多照により、刈り取り適期早まる！！
1株内でも出穂にバラつきあり、刈り遅れに注意！
気温は高い見込み、登熟向上を目指した水管理を！

1. 作柄概況と県内の生育状況

農林水産省は8/31に収穫見込みを示す「作柄概況」を発表しました。8/15現在の秋田県の作柄は「**前年並み**」となっています（図1）。全国で見ると、豊作であった前年と比べて「前年並み」以上になるのは25都道府県で、北海道や富山などの5道府県で「やや上回る」となっています。

今年の春先は天候に恵まれ、播種や圃場の準備（耕起や代かき）は順調に進み、育苗期間中は高温多照傾向であったことから、苗の生育は平年並み～やや早くなりましたが、田植えは平年並みに終了しました。

田植え後は一時的な低温があったものの、概ね気温が高く推移し、日照時間も多くなったことから、活着も順調で、その後の生育も良好でした。7月中旬までは平年より草丈は全県で短く、㎡当たり茎数は多く、葉齢は進んでいました。

7月中旬以降、気温が高く推移したことから、県内のあきたこまちの出穂期は全県で**平年より3日早い7/28**、全品種でも**平年より1日早い7/31**となりました（表1）。

8/20の各地域振興局定点調査圃場におけるあきたこまちの生育は、全県で穂数が**456本/㎡（平年比105%）**、1穂当たり着粒数が**70.7粒（平年比94%）**、㎡当たり籾数が**32.3千粒（平年比99%）**となっています（表2）。

前年は平年より穂数が少なく、一穂当たり着粒数が多くなりましたが、今年は穂数が多く、一穂当たり着粒数が少なくなったため、㎡あたり籾数がやや少なくなりました。

2026年産水稻の作柄

※8月15日時点、農水省による

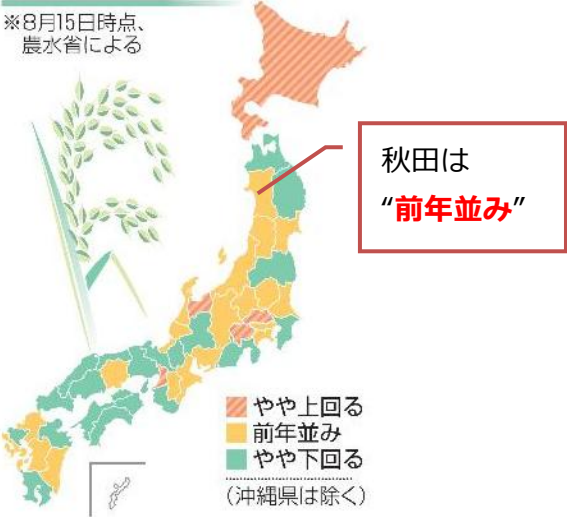


図1 全国の作柄概況（農林水産省発表）

表1 県内の出穂期の状況（各地域振興局調査）

地域	品種	出穂期		
		本年	前年差	平年差
鹿角	あきたこまち	7/29	+1	-3
北秋田		7/28	+1	-2
山本		7/27	-2	-5
秋田		7/26	-1	-4
由利		7/29	-1	-3
仙北		7/29	+1	-3
平鹿		7/31	+1	-3
雄勝		7/29	±0	-3
全県		7/28	±0	-3
県北	全品種	7/31	+1	-1
中央		8/1	+1	±0
県南		7/31	±0	-1
全県		7/31	±0	-1

今年は7月中旬～下旬にかけて高温少照で経過した
 (図2) ことから、**田植えの遅かった圃場や中晩生品種を
 中心に圃場間や圃場内、1株内でも出穂がバラついています。**
 仙台管区气象台が8/27に発表した向こう一か月の予報
 では、**気温は高い見込み**であることから、登熟の向上を
 図るための適切な水管理の徹底と、刈り遅れによる
 品質低下を防ぐため、「3. 刈取り適期」の判定方法を
 組み合わせ、総合的に判断して適期刈取りを行いましょう。

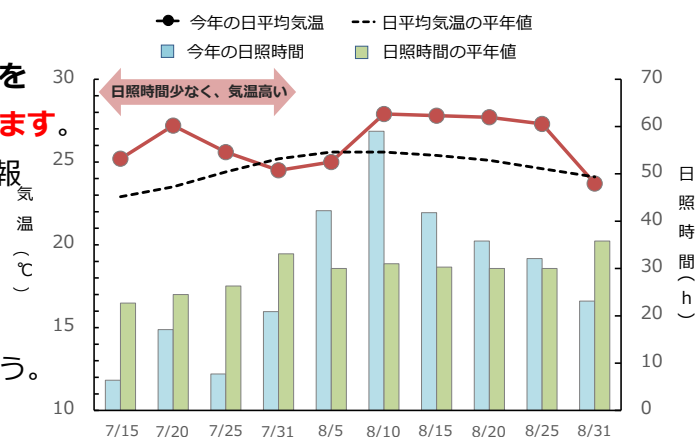


図2 秋田市の日平均気温の推移と日照時間

表2 8/20現在の地域別生育状況(各地域振興局調査)

地域	穂数			一穂当たり着粒数			㎡当たり粒数		
	本年	前年比	平年比	本年	前年比	平年比	本年	前年差	平年差
	(本/㎡)	(%)	(%)	(粒)	(%)	(%)	(千粒)	(%)	(%)
鹿角	464	114	97	68.6	83	98	31.8	96	96
北秋田	485	108	107	69.0	92	95	33.2	99	101
山本	437	111	101	71.3	87	91	31.6	98	94
秋田	464	123	112	70.2	86	91	32.4	108	102
由利	459	116	107	63.1	91	87	29.0	107	94
仙北	448	108	103	71.2	86	95	31.9	93	99
平鹿	434	111	101	74.5	83	95	32.6	92	98
雄勝	474	116	108	70.6	90	95	33.3	105	102
全県	456	113	105	70.7	87	94	32.3	98	99
収量構成要素の目標値 (あきたこまち目標収量 570kg/10a)	県北	450			70.0			31.5	
	中央	440			69.0			30.4	
	県南	415			73.0			30.3	

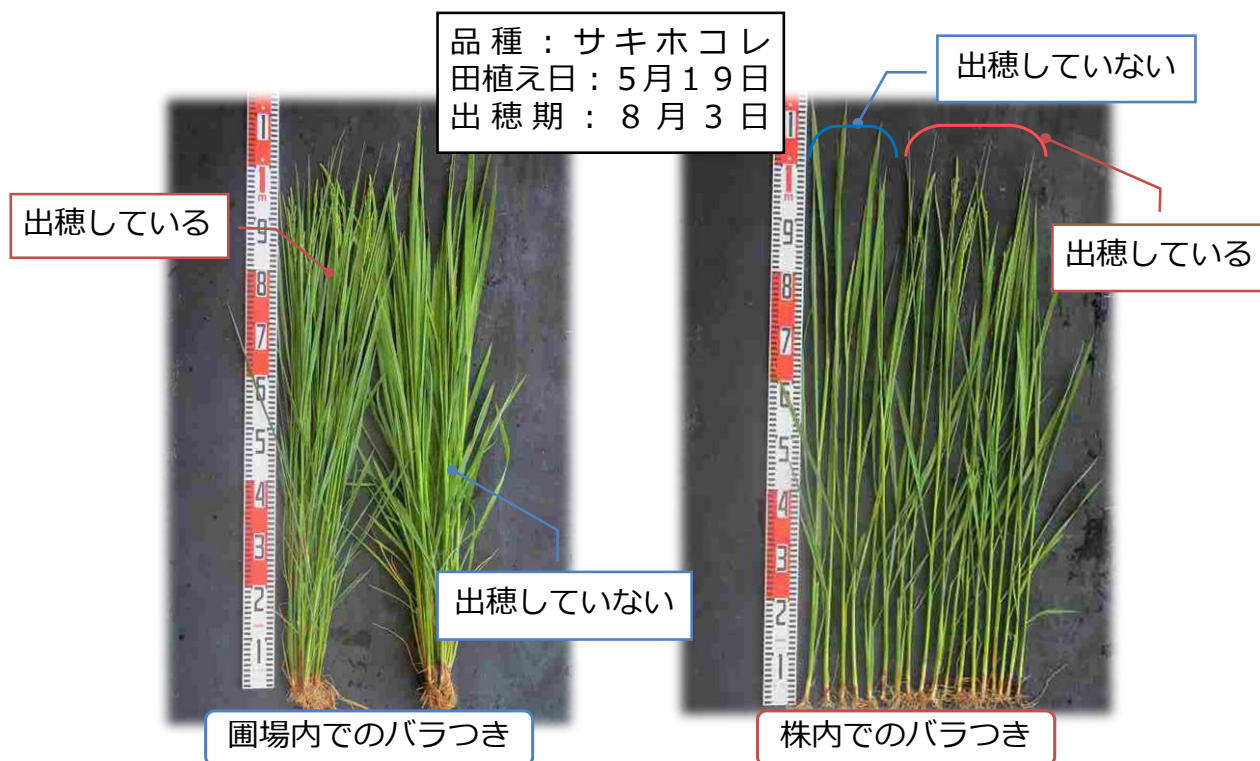


図3 出穂のバラつき

2. 今後の水管理

今後も高温になる見通しのため、適切な水管理を行いましょう。これまで高温対策の水管理で土壌は湿潤な条件にあったことから、**イネの根が急激な乾燥に対応できない**可能性があります。今年は登熟期間を通して高温だったことにより、**白未熟粒や充実度不足の発生**が懸念されます。落水時期が早いと、葉色の低下や葉の枯れ上がり、根の機能減退が起き、登熟が妨げられます。落水は**出穂後 30 日まで**を目安とし、30 日を超えてかん水できる圃場※では、落水を遅らせて登熟向上を図りましょう。

※圃場条件や田面の硬化程度を考慮して行って下さい。

3. 刈取り適期

刈取り適期は品種・圃場条件・栽培条件等で異なるため、以下判定方法を組合せ、総合的に判断します。

① 出穂後の日数、積算気温

表 3 に刈取り適期の目安を示しましたが、積算温度が間もなく 950～1,050℃に到達しそうな地域が多くなっています。

表 3 積算気温及び日照時間による刈り取り時期の目安

地域	出穂期	積算気温の到達日※ ¹		積算日照時間到達日※ ¹	
		950℃※ ²	1,050℃	200 h	265 h
鹿角	7/29	9/8	9/13	8/31	9/13
北秋田	7/28	9/7	9/11	8/26	9/9
山本	7/27	9/4	9/8	8/22	9/4
秋田	7/26	9/1	9/5	8/21	9/2
由利	7/29	9/5	9/10	8/23	9/5
仙北	7/29	9/6	9/10	8/25	9/8
平鹿	7/31	9/7	9/12	8/29	9/12
雄勝	7/29	9/7	9/11	8/28	9/10

※¹ あきたこまち570kg/10a収量水準での刈り取り適期判断の目安

※² アメダス観測値は8/30まで、以降は平年値を用いて算出

- 青米割合→早生品種：950℃、中生品種：1,050℃を超えると 10%以下となる
- 胴割れ米・茶米→早生品種：1,100℃、中晩生品種：1,200℃を超えると増加し、特に高温年には胴割れ率が高い

出穂期後の積算気温、積算日照時間は、出穂期の翌日から日々の平均気温、日照時間を積算したもの

② 籾の黄化程度

葉や穂首が緑色でも、籾の黄化程度が 90%の頃が適期になります（図 4）。今年は高温・多照のため、籾の黄化が早く進むかもしれませんので、注意しましょう。

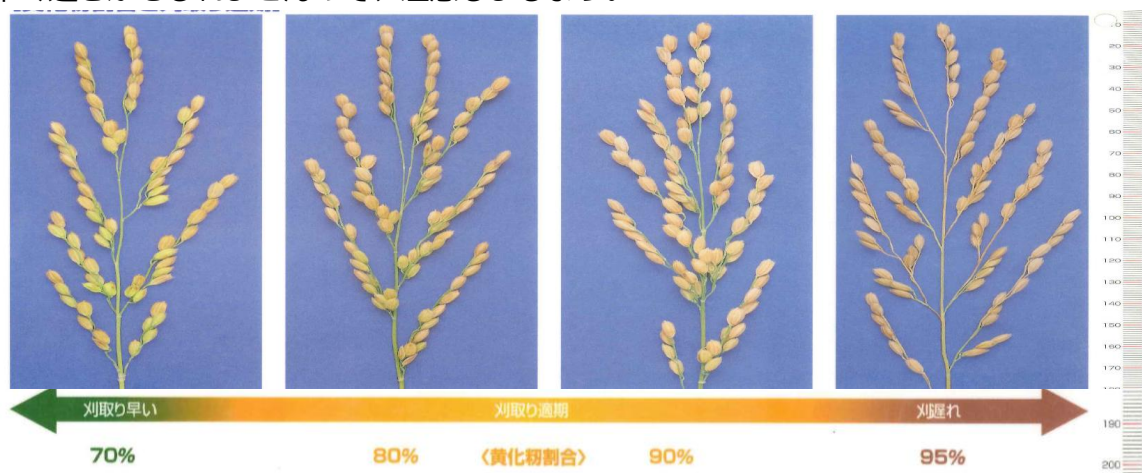


図 4 籾の黄化程度

③ 枝梗の黄化程度

図5に示すように、穂の主軸の上から4～5番目の2次枝梗（右図の○で囲った枝梗）まで黄化した頃です。

しかし、枝梗による判定は年次変動が大きいので、注意が必要です。

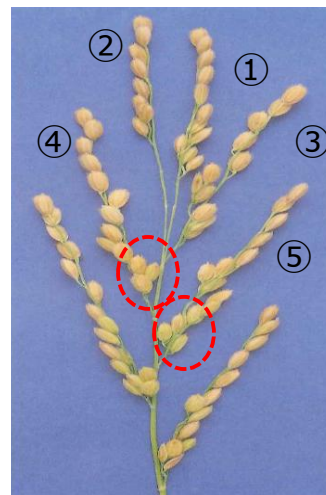


図5 枝梗の黄化程度

4. 倒伏した場合の対応

今年は平年に比べ草丈が長く、稈長も長いので、**倒伏リスクが高い**と予想されます。倒伏してしまうと受光体勢が著しく悪化し、登熟の低下による減収と穂発芽による品質低下を招きます。

【倒伏した場合の対応】

- ① 圃場に停滞水が確認される場合は、**速やかに排水**する。
- ② 早期に倒伏した場合→**速やかに4株ずつ束ねて立て直し**、穂を乾燥させる。
- ③ 登熟後期に倒伏した場合→早めに刈り取るとともに、**追い刈りや横刈り等による刈り取り精度の向上**に努める。
- ④ 穂発芽した場合→**刈り分け**を行い、品質低下の防止に努める。

7月に発生した熊本地震、そして先月の千葉、石川、富山県を襲った豪雨で被害に見舞われた皆様にお見舞い申し上げます。県内でも先月末の豪雨で、収穫間近の田んぼが水に浸かるなど、被害が発生しています。毎年異常気象による被害が発生していて、心が痛みます。

先月の生育調査では滝のように汗をかき、今年もまた暑いなと思っていましたが、朝晩は気温が下がる日が増え、秋の気配を感じます。梅雨入りしてから「本当に今梅雨か？」と思うような晴天が続き、このまま空梅雨で終わるのかと思いきや、7月下旬に梅雨らしい天気。急激に稲の草丈が



伸び、そこへ先月の大雨により倒伏し始めている圃場がちらほら…教科書通りにいかない稲作、本当に栽培管理が難しいと感じます。

今年は圃場1株内でも出穂がバラつき、刈取りの判断が難しい年だと思いますが、品質の良いお米となるよう、引き続ききめ細やかな水管理と、適期刈取りをお願いいたします。

なべ

全国農業協同組合連合会 秋田県本部
〒010-8558 秋田市八橋南 2-10-16
URL : <https://www.zennoh.or.jp/ak/>

★次回の発行は11月中旬頃
資料の使用にあたっては、
米穀部の許可を得てください



J A全農あきた 米穀部
〒011-0901
秋田市寺内字神屋敷 295-53
TEL : 018-845-8500
FAX : 018-880-1572